【様式】

実践テーマ「児童生徒の興味・興味を高め、指導の目的を踏まえたALTや１人１台端末の活用

稚内市立稚内東中学校

第１学年　〔単元名〕　Unit 5 A Japanese Summer Festival

P

〔単元の目標〕

・自分の伝えたいことを英文 のルールに従って正確に書くことができる。
・与えられたテーマ(自分自身のことや他者のことなど)について、原稿を見ながら発表することができる。

D

〔単元の目標の達成に向けた手立て〕

	手立て	資料
①	【書くこと】 作成した文を教師による添削だけでなく、グループワークやペアワークを活用し学び合いの機会を設ける。	A
②	【話すこと】 即興で話す土台を身に付けるために、音読を重点的に行い、動画に保存することで振り返りに活用する。	B
③	【書くこと】 英文作成の機会保障のために、ICTを活用して生徒が書いた英文の添削の支援を行う。	C

C

〔単元の目標の達成状況〕授業での見取りから

- **自力では作成が難しい生徒も、進んで完成させようとする姿が見られ、全員取り組むことができている。**
- **複数の録画の中から、振り返りや添削にふさわしい動画を考えて提出し、原稿を見ながら発表する力を伸ばそうとしていた。**

A

〔改善の方向性〕

【書くこと】最終的にまとまった文章を書けるように、徐々に語数を増やしていく。

【話すこと】現在は「話す」というよりは、読む（音読）中心なので、話す活動を増やしていく。

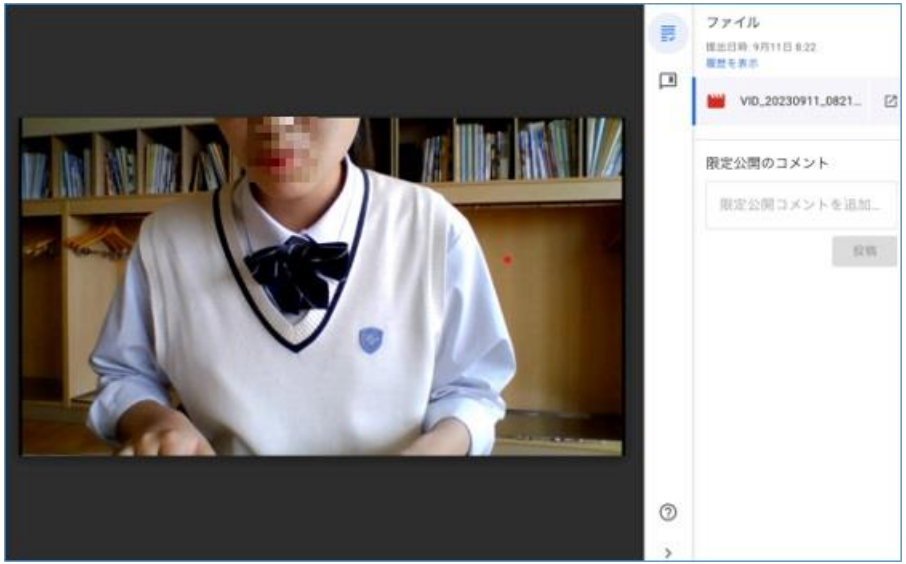
資料A

①に関わって、代名詞の目的格について学習した後の英作文作成時にグループで学び合いをしている様子。右の生徒が助けを求めて、左の生徒がアドバイスをしている様子。英文のポイントとなるところを指差ししたり、例文と照らし合わせたりして、本人が言いたいことを書くことができていました。

資料B

②に関わって、音読の録画提出に向けて、デジタル教科書で音声を聞いている様子。この生徒は聞き取りにくい文の再生速度を下げて、繰り返し聞いていました。一方で、得意な生徒の中には再生速度を上げて、同じスピードで発音できるよう挑戦する生徒も見られました。

資料B



②に関わって、生徒が提出した動画の様子。生徒は繰り返し録画をして、満足できるものを提出しています。教師はクラウドを活用し、提出者の管理や生徒へのフィードバックを行っています。

資料B

②に関わって、ペアでのやり取り動画を提出するために、デジタル教科書で発音を確認しながら練習する様子。このペアは抑揚に気を付けて練習していました。

資料C

③に関わって、生徒が作成した文と修正された文の例。左の列が生徒が考えた文、中央の列はAIが修正したもの。右が修正した理由。

１番目と３番目の文は、正常に機能したもの。
２番目の文は、「太郎はフルートを毎日演奏します。」という意図で作成しましたが、フルートの綴りを間違えたため、「太郎は毎日果物を食べます。」という英文になってしまった。

生徒が考えた文	修正された文	修正された理由
my brother game on everyday.	My brother plays games every day.	"my"を大文字化し、"game"を"games"に修正し、文の構造を正しいものに修正しました。
Taro plays the fruit everyday.	Taro eats fruit every day.	"plays"を"eats"に修正し、"the fruit"を"fruit"に修正しました。
I think very important environmental protection.	I think environmental protection is very important.	"very important environmental protection" は修飾語の順序が不自然です。正しい文に修正して、"I think environmental protection is very important." となります。

第2回E-Lineセミナー後の実践と成果①【Unit 8】

改善の方向性
【書くこと】1文から2文の短い文を書く　→　まとまった文章を書く。
【話すこと】原稿を読む、教科書音読　→　即興で思考や意見のやりとりを行う。

【書くこと】
①グループワークやペアワークを活用し学び合いの機会を設ける。

やりとりの中でジェスチャーを入れる余裕が出てきました。

Unit Activity STEP 3 での活動
「学校で撮影した写真や動画について、紹介する」
・タブレットを使って写真や動画を記録し、その内容について説明をする。前段階として、ワークシートに説明する内容を書かせる。
・班員と協力をし、お互いにアドバイスをしながら個々の文を完成させる。
・早く終わった班は、発表の様子をタブレットに記録して改善を図る。

→　・継続してグループでの活動を行ってきたため、より長い文を書く際も機能して助け合いながら活動することができた。
・タブレットに記録させ、それを元に改善させることで自己調整能力が身についた。

【話すこと】
②即興で話す(やりとり)活動を記録し、次につなげるための材料とする。

Mini Activity Speak & write　や　Unit Activity STEP 1 での活動
「ジェスチャークイズをする」、「学級の時間割を見て、今行われていることについて話す。」
・帯活動として毎時間ペアで話す活動(日常会話)や、グループでやりとりを行う活動を取り入れ、
→　『活動の録画→反省→同じ活動を別の人と行う』

第2回E-Lineセミナー後の実践と成果②【Unit 8】

改善の方向性
【書くこと】1文から2文の短い文を書く　→　まとまった文章を書く。
【話すこと】原稿を読む、教科書音読　→　即興で思考や意見のやりとりを行う。

【書くこと】
③ICTを活用して生徒が書いた英文の添削の支援を行う。

タブレットを用いて考えた文を入力し、お互いに修正し合っている様子。

Unit Activity STEP３などでの活動
「自分の気持ちや考え、事実などについて記述する」
・ノートやワークシートにまとまりのある文を書いた後に、学級共通のファイルに自身の書いた内容を打ち込む。
・打ち込んだ後に他の仲間が書いた文のアドバイスを打ち込んだり、他の仲間の記述を参照したりすることで、より正確で豊かな表現につなげる。
・教師はAIを利用することで、打ち込まれた文章を瞬時に添削するサポートを受けることができる。

→　・書くことを苦手としている生徒にとって、同じ条件で書かれた様々な文章を一度に見ることができるため、大きな一助となる。
・書くことを得意としている生徒にとって、他の文を見て正しく、またはよりふさわしい表現に修正する活動を通して、本人の表現力が向上した。
・現時点では生徒にAIを利用させることには向いていないと考えるが、教師側が正しい知識で活用することは有意義であり、今後より発展させられる可能性がある。